

令和7年度 上温品まちづくり協議会 事業報告書

1 令和7年度の目標に対する事業実施の成果

- ・地域の生活課題の根底として共通する「人と人とのつながり」を解決するため、多世代交流につながる事業を実施し、「人と人とのつながり」を創生することができた。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	①上温品ふれあいまつり	(17) 事業中(1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 10 月 19 日	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	600 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（福祉部会）	
4 取組内容		
【体育館】 ・開会式（和太鼓による演奏含む。） ・ステージ発表（手品、バンド、ストリートダンス、新体操） ・温品中学校吹奏楽部による演奏 ・大抽選会 ・閉会式 【グラウンド】 ・体協主体によるモルック対抗戦 ・交流コーナー（女性会、4町内会、ひばりのとまり木による飲食提供、石原田、学区子ども会、小学校PTA、きつつき共同作業所、はぐくみの里による出店） ・子育て・健康相談コーナー（地域支えあい課、福木温品包括支援センター）		
5 目的・効果	（事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。）	
(1) 目的 地域最大の行事「ふれあいまつり」は地域の賑わいづくり、多世代の交流イベント及び地域の伝統行事として継続する。		
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 日曜参観後の開催のため、小学校児童はもとよりその保護者をはじめとする多世代の地域住民が集うことにより、これまで以上に地域内の絆の活性化を図り、賑わいづくりに貢献できた。交流コーナーを開催することで、地域団体や町内会等の活性化につながり団結を感じることができた。また、コロナ前のようなステージ発表を復活・充実させることで、地域での人材発掘につながった。		

1 事業名	②ほっとカフェ上温	(17) 事業中 (2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 4 月～ 令和 8 年 3 月 (第3水曜)	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	265 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (福祉部会)	
4 取組内容	地域の皆さんが気軽に立ち寄って、コーヒー等を飲みながら交流する憩いの場にする。町内会加入の有無に関係なく参加できる集いの場所とする。 第3水曜日 10:00～12:00 に開催した。 軽い体操、工作、紙芝居を通じて、住民同士が交流した。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	まちづくり協議会の事業とすることにより、町内会加入の制限がなくなり、誰でも参加できるオール上温品の居場所づくりとする。年齢に関係なく、若い世代とつないでいくことで、多世代に開かれた地域の居場所とする。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	住民が気軽に顔を合わせて集える居場所となり、住民の社会的孤立を防ぐことができた。月1回開催することで、住民が家から出て、地域との関係づくりを行うことができ、災害が起こった場合でも、顔見知りがいるということで避難活動にも役立てることができる。	

1 事業名	③子育てサロン「こんぺいとう」	(17) 事業中 (3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 4 月～ 令和 8 年 3 月 (第1水曜)	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	141 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (子ども育成部会)	
4 取組内容	子育て世帯が孤立することなく、気軽に集い、ゆったりした時間を過ごしながら交流できる居場所とした。 誰でもいつでも気軽に集える場所にするために、本棚を温品福祉センター1階に設置した。また、親子と一緒に工作をした。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	「こんぺいとう」をまちづくり協議会の事業に組み込むことで、遊具や本を充実することができ、町内会未加入の方でも自由に参加して交流の場を広げることにより、子育て世代が孤立することなく、地域の中で子育てしやすい環境を整える。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	子育て世代を地域ぐるみで見守り、支援できる場の1つとすることができた。 オープンスペースが近場にあることで、子育てしやすい環境を整備することができた。	

1 事業名	④かみぬくファーム	(17) 事業中 (4) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 5 月～ 令和 8 年 3 月	
(2) 実施場所	88ハウス、上温品北ファーム	
(3) 参加者数	158 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (子ども育成部会、事務局)	
4 取組内容	88ハウスでは5月にサツマイモの苗植え、7月に草取り、11月に芋掘り＋落ち葉清掃、12月に焼いも会＋落ち葉清掃を行った。 今年度から、休耕地である北ファームにおいて、野菜等を栽培し、多世代での農業体験、地域の賑わいつくり、イベント時の食材提供、収穫物を用いて多世代料理教室の開催と地域活性化に寄与できた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 上温品の自然豊かな地域資源・特性を活かし、サツマイモだけでなく、様々な野菜等を育てることで、多世代での農業体験、交流が期待される。 また、落ち葉清掃や休耕地活用により、地域の景観維持の重要性や有害鳥獣対策、防災意識の向上（落ち葉によるケガ、落ち葉詰りの解消）だけでなく、ものづくりの面白さを学ぶことが期待される。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 上温品地域の地域資源を利用することで地域の良さを発見し郷土愛を育むことに寄与できた。また、落ち葉清掃活動を体験することで、防災意識の醸成と社会奉仕活動の重要性が育まれた。 今まで地域活動に参加していなかった方の参加があり、交流を深めることができた。一連の活動の中で初見のシニアと幼児が協力して清掃等をしている姿があり、多世代交流の場となっていることを実感することができた。		

1 事業名	⑤町民ハイキング	(17) 事業中 (5) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 6 月 8 日	
(2) 実施場所	安佐動物公園	
(3) 参加者数	107 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（健康保健部会）	
4 取組内容	上温品住民から参加者を募り、貸切バスにて安佐動物園へ行き、園内を見てまわりながら多世代交流を行った。上温品より勾配が少ないことで歩きやすく、今まで参加できなかった方の健康増進にもつながった。 若い世代の親子での参加により、地域活動への認知度が低い世代の参加につながった。今後の地域活動への参画へつなげ、地域コミュニティを活性化していく。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	令和6年度まで実施していた「町民ハイキング」は菰口憩いの森公園まで登っていたが、高齢化し坂を登るのが困難になってきている。昼食付で動物園までバスで行くことで負担も減り、参加者が増えることが期待される。今まで以上に多世代交流ができ、勾配が少ないことで今まで参加できなかった方の健康増進につながる。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	実施場所を変えることで、今まで参加できなかった、してこなかった方々が参加することができ、町内会を超えた住民同士の交流、幼児から年配の方までの多世代交流にもつながった。 普段入れないオオサンショウウオバックヤード見学という付加価値をつけ、地域活動の参加の促進ができた。 また、こどもたちが率先して手伝いをしてくれる場面もあり、将来への人材育成にもつながった。 そして、参加者へアンケートを実施したことで、若い世代の意見を聞くことが出来た。地域活動への手伝いをしてもいいという新しい方の発掘もできた。	

1 事業名	⑥かみぬく新発見ウオークラリー	(17) 事業中 (6) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 10 月 5 日	
(2) 実施場所	上温品全域	
(3) 参加者数	43 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（健康保健部会）	
4 取組内容	上温品全域において、地域内の名所や認知しておいてほしい場所（危険個所など）をゲーム感覚で楽しみながらまわっていく。クイズの正解数や散策時間によってポイント数を変え、ポイント上位者には景品を贈呈した。 また、参加者で昼食を食べ、住民同士の交流を図った。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	上温品ふるさとカルタにあるような地域内の名所や、危険個所など上温品を知ってもらおう。多世代で参加することで、多世代交流を行う。若い世代が親子で参加することで人材発掘、人材交流を行う。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	上温品地区をゲーム感覚で楽しみながら、自分の足で実際にまわることによって、上温品を新発見・再発見し多世代、特に若い世代の地域への愛着の希薄化の改善に寄与できた。 砂防堰堤の存在を知ってもらうことで、上温品のハザードマップを意識してもらい、どんな危険が存在するのかなど、防災意識の向上につながった。また、チェックポイントのクイズで防災の様々な知識を得ることができたことも防災意識の向上につながった。 上温品に住んでいながら知らない場所も多々あることが分かり、クイズによって地域内の知らない知識を得たことで、地域に眠っている資源、魅力を新発見・再発見し、今後の地域活動への活用を考えることができた。	

1 事業名	⑦地域防災研修事業	(17) 事業中 (7) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 11 月 1 日	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	76 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（環境安全部会）、上温品地区自主防災会連合会	
4 取組内容	「かみぬく防災クエスト 2025」と称し、地域住民に対して防災啓発を行った。 ・消火体験 ・救命救急体験 ・炊飯体験 ・トイレ体験 ・非常持出袋 ・家の備え ・炊き出し訓練（防災食実食体験） ・備蓄倉庫見学 ・VR 体験、マイタイムライン啓発 ・ペットとの避難 ・災害用伝言ダイヤル体験 ・ハザードマップ確認	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 地域防災に対する関心をこども世代も巻き込み、若い世代から防災に対する意識を高め育む。発災時に慌てず落ち着いて行動できる人材を地域で養成するきっかけづくりとする。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 自主防災会の防災準備会議・これまで培ってきた様々な防災イベントを集結し、地域住民へ啓発していくことで、防災士だけでなく地域住民一人一人の防災力を高めることができた。住民はもとより、イベントを運営する側に防災士以外の地域団体・町内会代表住民に手伝ってもらったことで、それぞれの団体内、町内会単位での防災に対しての意識向上につながった。 防災イベントを行うことで、備蓄品を使用する機会を持ち、多世代への啓発活動をしていくことで、新たな問題点・改善点を見つけることができ、今後の備蓄・防災啓発活動へのヒントにすることができた。		

1 事業名	⑧かみぬくクリーン大作戦（菰口）	(17) 事業中 (8) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 2 月 21 日	
(2) 実施場所	菰口	
(3) 参加者数	45 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会（環境安全部会）	
4 取組内容	令和6年度まで老人会が清掃を実施していた菰口道路・しだれ桜（2000年桜）広場周辺の側溝等の清掃することで、大雨が降るごとに菰口地域で頻発する土砂災害を少しでも防ぐ。 また、令和6年度まで中学校区で実施されていたクリーン大作戦を上温品地域で継続し、きれいな上温品を維持し、町内会を中心とした住民同士の多世代交流の場とする。 実施に当たっては、チラシ等により、全住民に対して参加者を募った。	
5 目的・効果	（事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。）	
(1) 目的	令和6年度まで中学校ふれあい推進協議会にて「クリーン大作戦」として行っていた町内一斉清掃の実施がなくなり、老人クラブが実施していた「菰口道路清掃」も高齢化、参加者不足で消滅した。2000年に植樹したしだれ桜広場の整備も必要なため、地域全体で取り組み、魅力ある上温品を目指す。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	清掃を実施することで、大雨時に頻発している災害発生を少しでも防ぐことができる。 令和6年度までの老人クラブ実施の清掃活動では参加することがなかった、上温品地区全町内会から協力者を募ったことで、人材交流の活性化、多世代交流、地域活動への参加の促進ができた。菰口という地域資源の周知にもつながった。	

1 事業名	⑨上温品ふれあい双六	(17) 事業中 (9) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 7 年 4 月～ 令和 8 年 3 月	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	30 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (ふるさと創生部会)	
4 取組内容	令和6年度に史実(史跡)、伝承(民話)、上温品の自然(景勝)、神社仏閣等々の素材収集はほぼ完了し、以下の要領で上述記載の諸団体のメンバー、構成等のアイデアのある方の協力を得て取り組んだ。地域住民、温品中学校芸術部に協力を求めた。 ・シナリオ作成 ・地点決め ・レイアウト／背景作成 ・発注 本事業は、上温品地区社協が令和4年度に制作した「上温品ふれあいカルタ」の後続事業として、3年計画で完成させる予定。令和7年度はその2年目であった。来年度、製品化する話まで進んだが、協力者の諸事情で一旦、中断となった。新たな協力者を探し、製品化につなげたい。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	上温品を、上温品で生活する地域の人々だけでなく、上温品を離れて生活されている方々の「ふるさと」と根付くことを目的とする。地域内でのふれあいを深める活動の場づくりを推進するため、上述諸団体および地域住民の協力を得て、目的達成の手段として「上温品ふれあい双六」を制作する。	
(2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	地域住民や温品中学校芸術部等、地元にかかわる協力者を得ることができた。今後、「上温品まち歩きガイドブック」として活用することで、屋内での遊戯の延長線で地区全域に目が向くことが期待される。既に完成している「上温品ふれあいカルタ」と一緒に遊べるような3世代交流事業が期待される。	

1 事業名	⑩上温品さくらまつり	(17) 事業中 (10) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年3月22日	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	330 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (ふるさと創生部会)	
4 取組内容	幼児から中学生の広範囲のこどもたちが地域の大人の指導を受けながら、一緒に輪投げやけん玉、紙飛行機、コマ回し、紙パッチン、竹鉄砲、割りばし鉄砲などの昔ながらの体験遊びや創作遊び、また、ストラックアウト・キックターゲット、綿菓子作りを楽しむことにより、多世代間交流をした。上温品ふるさとかるたを体験したことで地域を知ることができた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	少子高齢化が進み、地域でこどもたちの元気な遊び声が少なくなっている。地域の活性化には次世代を担うこどもたちが育った地域を愛し、先輩たちから地域の行事などを受け継いでいくことが欠かせない。本事業は、地域の人々とのふれあいにより、地域を愛し、伝統を受け継いでいくこどもへ成長する一助とすることを目的とする。また、幼少のこども達が付き添い参加する親御さんとの触れ合いで絆を深めることを目的とする。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	こどもたちにとって上温品が思い出深い「ふるさと」になり、心豊かな人間に成長し、成人して地域を離れても「ふるさと」に帰ってまつりのお手伝いしようという気持ちが沸き、その次の世代のこどもたちに繋がっていくことが期待できた。3年目になるが、来場者・協力者とも過去最高となり、地域への周知が少しずつできていることを感じた。	

1 事業名	⑪いこいの場作り	(17) 事業中 (11) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月～令和8年3月	
(2) 実施場所	法道寺川中流部	
(3) 参加者数	25 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (ふるさと創生部会)	
4 取組内容	最北流域には 250m も苔の生えた岩場が続き、連続する階段状の小滝が 8 個存在する。 この山道を登りやすいように整備し、地域イベントに活用できるようにハイキングコースとして整備する。岩場が多いため、足掛かりや階段、アルミ製足場板やロープ等で作業道を歩きやすく整備した。作業に必要な資材等をそろえた。 今年度は、整備の許可の確認等で、作業が進まなかったが、来年度以降は現場での作業を進めていく予定である。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	上温品の魅力スポットが少ないが、自然豊かな地域特性を活かした未整備の景勝スポットが存在する。この場所を整備していくことで、近隣住民他、多くの方々に訪れてもらい、地域の賑わいづくり、多世代交流ができる場を作る。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	山道を整備し景勝スポットへのアプローチが容易になると、より多くの方々が訪れ、上温品の魅力が増し、地域活性化になる。来訪者の健康増進にもつながる。将来的に、イベントを開催することで、地域の賑わいづくりになる。	

1 事業名	⑫温品福祉センターまつり	(17) 事業中 (12) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 <u>8</u> 年 <u>1</u> 月 <u>24</u> 日	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>450</u> 人	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会、温品福祉センター</u>	
4 取組内容	福祉センター、福祉センター利用団体や地域団体が協力して、地域内の多世代が参加できる、以下のイベントを開催した。 ・ビンゴ大会 ・ワークショップ（サッカーボール作り） ・ミニゲームコーナー（輪投げ、つりゲーム） ・飲食コーナー	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	温品福祉センターを除く東区の福祉センターでは、福祉センター祭りを実施しており、馬木地区や温品地区では公民館まつりを実施している。温品福祉センターでもイベントを実施して、上温品地区の活性化につなげる。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	以前、こどもまつりを実施し、令和7年度福祉センターまつりを実施した。多くの地域住民が集い、地域の多世代が交流できるイベントを温品福祉センターで開催することができた。上温品は地域住民が多く集まれる場所がないために比較的通いやすい温品福祉センターという立地環境から多くの方が楽しめ、多世代交流ができることで、地域の活性化につながった。福祉センターという役割上、若い世代の利用が少ないが、まつりを行ったことで、こども世代から保護者世代へ福祉センター、上温品まちづくり協議会の広報をすることができた。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	⑬防災用品の整備	(17) 事業中 (13) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月 ～ 令和8年3月	
(2) 実施場所	上温品小学校	
(3) 参加者数	15 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (事務局)	
4 取組内容	今年度は、R5～6年度で防災用品としてそろえた備品の置場がなくなってきたので防災倉庫を購入した。防災だけでなく地域行事を行う上でも、テント、机・椅子が必要なので購入した。購入して備蓄しておくのではなく実際に使用し、いざと言う時に間に合うように使う訓練を行った。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	上温品地区では、現在避難所生活に必要な最低限の避難所備蓄品は揃えているが、多数の人が避難したときの準備としては不十分である。本事業では発災時の避難から避難所生活までに必要な防災用具や避難所備蓄品を長期計画で整備して、災害に強い強靱な地域を構築する。また、整備した用具等は他の事業にも活用して地域活動、防災教育に役立てる。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	災害の発生が想定される地域では、発災時の避難所への移動や避難所生活に必要な用品の整備が地域の安全・安心に欠かせない。防災用品の整備と防災教育への活用のハードとソフト面からの防災対策により地域住人の安心感が高まる。地域でのイベントで使用し、日頃から使い慣れておくことで、有事の際に備えることができた。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	⑭地域人材活用事業	(17) 事業中 (14) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(15) (1)～(14)に掲げる活動の新たな担い手の確保に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月 ～ 令和8年3月	
(2) 実施場所	上温品全域	
(3) 参加者数	1230 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (事務局)	
4 取組内容	上温品まちづくり協議会が主体となって行う事業について、まちづくりのための行事や伝統・文化等の継承・保存、自然環境の保全などの地域活性化の取組を促進するため、地域在住の町民等が永年にわたって蓄積した知識・技術等を地域活動に還元する人材確保を推進する「上温品まちづくりポイント事業」を実施した。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	地域団体、町内会等で役員不足、人員不足で地域コミュニティが崩壊しつつある。地域住民が地域活性化事業等に積極的に参加できる環境を整え、地域の課題解決やコミュニティの発展等を促進する。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	地域団体、町内会等における役員・人員不足、高齢化に対して、人材交流・確保することで、地域の課題解決やコミュニティの発展等が期待でき、地域活性化を促進する。若い世代の人材を発掘していき、持続可能な地域を目指す。協力したことに対して、わずかではあるがポイントをつけることで、感謝の意を伝えることができ、地域活動の担い手へのモチベーションアップに少しでもつながった。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	⑮地域困りごと支援事業	(17) 事業中 (15) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(13) 地域課題等の把握に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月 ～ 令和8年3月	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	40 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (事務局)	
4 取組内容	令和6年度までに実施した事業及び新たに地域課題に浮上した課題についての広報、協議や相談窓口となり、今後、事業化や対応機関へとつなげていく。 基準服リサイクルについては、少しずつ地域内に浸透してきているのか、問い合わせの電話が増え、譲渡数も増加した。 こども見守り体制の見直しは話し合いの話題にのぼるが、解決策がなかなか見いだせない状態である。 計画書で上げた項目（有害鳥獣対策、買い物支援等）については、調査中である。 窓口があったことで、若い世代から「町民運動会」の提案を受けることができた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	令和6年度までに実施した事業や新たに浮上した課題に対して広報や相談窓口を設置することで、継続的にサポートすることが可能となるとともに、将来的に取り組むべき地域課題解決事業の提案に、地域からの声を反映させることにつながる。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	地域内の小さい困りごとでも広報、相談窓口を設置することで、今ある地域課題に対して継続的にアプローチすることができ、将来的に取り組むべき地域課題が掘り起こされ、住み良い上温品にしていくことに寄与できた。窓口があることで、来年度の新たな事業につながった。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	⑩学習ひろば	(17) 事業中 (16) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年 夏休み、冬休み中	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	64 (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 上温品まちづくり協議会 (事務局)	
4 取組内容	小～高校生を対象に宿題等の勉強ができる場を提供する。自習を基本とし、分からないところは見守りの大人や上級生あるいはボランティアの大学生等が教える。 令和5, 6年度の実績から長期休暇 (夏休み、冬休み) に集中的に行った。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	地域に公民館や図書館などの自習スペースがないのが実情である。自宅での独習だけでなく、同じ仲間と一緒に勉強をしたいと希望しているこどもたちに宿題等の勉強ができる場を開設する。自習を基本とするが、分からないところを見守りの大人や上級生あるいはボランティアの大学生が支援するなど多世代の交流を図りながら、こどもたちの健全な育成につなげる。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	自習を基本とする学習支援であるが、見守りの大人等を含む集団での学習であるため、学習意欲の向上だけでなく、地域の中での居場所づくりとしての役割が期待できる。学力向上に少しでも寄与できた。 また、見守りボランティアを募集することで、地域の中での人材発掘、育成を行うことを目指したが、今年度は大学生の発掘ができなかった。他事業で行ったアンケートにより、保護者世代の発掘ができた。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	⑰スマホを楽しむ	(17) 事業中 (17) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(4) 地域住民の生涯学習に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年 <u>1</u> 月 <u>16</u> 、 <u>21</u> 、 <u>28</u> 、 <u>30</u> 日	
(2) 実施場所	温品福祉センター	
(3) 参加者数	<u>32</u> (延べ) 人	
(4) 主催団体	団体名 <u>上温品まちづくり協議会 (事務局)</u>	
4 取組内容	スマホをもっと活用したいと思っているシニア世代を対象にスマホを楽しむ術を学ぶ。 ・メールを楽しむ ～ 文章を入力、ショートメール・ラインメールの送受信 ・TV電話を楽しむ ～ ライン電話 ・知りたいことを探す ～ ホームページ検索、SNS ・防災情報を得る～ ひろしま防災情報、NHK 防災、キキクル スマホに詳しい人から操作を学ぶほかに、学生ボランティアにマンツーマンで質問して個別に問題解決する。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	スマホを活用して日常生活をより楽しくするだけでなく、災害時など非常時にスマホを活用して情報発信、情報共有ができるようになることで避難等がスムーズにできるようになる。	
(2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	災害時に、情報共有することで避難難民を出さないようにすることができる。学生ボランティアに教えてもらうことで、若い世代に地域活動への参加を促すことができ、地域の活性化につながった。災害時の連絡網確保の一助となった。今年度は、行政の ICT 活用サービス等を利用したことで、当事業の対象のシニア世代だけでなく、教える側の協力者の知識向上にも役立たせることができた。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
通年	各種団体支援事業	なし	町内一括拠出金を使用し、各種団体を支援する。